MANTIS背負って中国行脚

佐藤 公治　名古屋第二赤十字病院 整形外科・脊椎脊髄外科

中国で手術や講演をしてくれませんか

中国ストライカーBeijingのラッセル氏より依頼が来た。中国で初のMANTIS手術をしてくれないか。旅費と宿泊費のみ支給するが他はボランティアで良いかと。外交問題で日中関係が揺れている最中、冒険好き・新しいこと好きの私は二つ返事で承諾した。自分と中国との縁は深い。友人もいる。1995年にアジアSICOTで北京を訪れた。南京は名古屋の姉妹都市である。江蘇省人民医院・南京医学院第一附属病院と当院は友好関係にある。2007年には南京・桂林を訪れた。2010年7月には南京で開催された脊髄障害学会に江蘇省人民医院の整形外科脊椎外科医の殷先生から招待され熱烈歓迎を受けた。

まず名古屋の中部セントレアから飛び立ち二時間で上海へ入った。杭州、広州（1週間後にはアジア競技大会の行われたところ）、重慶、南京、上海の5都市を回り、計7ヶ所の病院で7回講演した。1例のXIA-open手術と3例のMANTIS-MISt手術を行った。2010年11月3日から10日の8日間、各地を行脚した。（写真1）

（写真1）中国地図

アジアでのMISS

アジアでの日本の立場はどうか。少なくとも低侵襲脊椎手術（以下MISS; Minimally Invasive Spine Surgery）の分野では進んでいる。脊椎内視鏡（以下MED; Micro endoscopic disectomy）は、現在、開発されたアメリカでは廃れ、日本・韓国・中国でよく行われているという。アジア人は手が器用で、また応用は得意だ。低侵襲脊椎固定・安定術（以下MISt; Minimally Invasive spine Stabilization）のシステムは欧米で開発されている。日本では2005年から順次発売された。まだ日本でも15%程度の脊椎外科医しか行っていない。アジアではもっと少ない。

アジア人の体型に応じて手技やシステムの工夫、アジア人医師の考え方としての手術適応など、やはりアジア人同士は話が合うと思う。アジアの脊椎外科医ともっと情報共有をしたい。結構早くからSEXTANTやMETRxは使っていると聞くが、実際はどうなのか。今回そんなことも知りたくて出かけた。

4つの講演ネタを携えて

MIStのネタを5つ持って行った。演題は、1 Current minimally invasive spine surgery in Japan, 2 Endoscopic spine surgery, 3 MISS with navigation, 4 Advantage and disadvantage of MISS, 5 Minimally invasive spine stabilization for thoracic and lumbar multiple level lesion.

大抵は私の下手な英語を、英語に堪能な医局員が中国語に訳しながらプレゼンした。若手の先生は英語が堪能でいろいろな質問を受けた。皆、日本に来たがっていた。

症例検討

11月4日、杭州の浙江中医薬大学付属第一医院・浙江省中医院骨科では、患者本人や主治医から現症を聞いて画像を診て治療方針をアドバイスした（写真2、写真3）。さらにここではXIA-openの手術も行った（写真4）。

（写真2）浙江中医薬大学付属第一医院にて病棟にて患者診察

（写真3）浙江中医薬大学付属第一医院にて症例検討

（写真4）浙江中医薬大学付属第一医院にて馬先生とXIA-open手術中

中国初めてのMANTIS手術

2010年、中国でMANTISが発売された。11月5日、広州中医薬大学第一付属医院脊柱外科にて講演し（写真5）、陳先生と中国初のMANTIS手術を行った（写真6）。MISS用の器械はまあそろっていた。ナビはない。

実は2009年、日本でもMANTIS一例目をやらせて頂いた。光栄なことだ。

（写真5）広州中医薬大学第一付属医院脊柱外科で講演

（写真6）広州中医薬大学第一付属医院脊柱外科の陳先生とMANTIS中国1例目

重慶（チョンチン）の周（ジョー）先生

11月6日中国屈指のMISS surgeonである周教授主催の低侵襲研究会（ライブサージャリー付き）が重慶の第三軍医大学新橋医院骨科にて開催された。中国各地から32名ほどの脊椎外科医が集まった。MANTIS手術中国二例目をライブサージャリー。私が手術し、周教授が解説した（写真7,8）。MISSの器械は充実していた。ナビはあるが使っていなかった。低侵襲手術専用病室を見学（写真9）。教授室には日本医師からのお土産が多く陳列してあった。MIStロボットも見せてくれた。将来はロボットに経皮的椎弓根スクリューを入れさせるという。夕方から'崖っぷちホテル'に移動し経皮椎弓根スクリュー技術検討会（写真10）。各地から演者あり、自分も4演題を話した。MISSのヒーローになれと、三国志のヒーローの置物を頂いた。その後、中国のMIS surgeonと火鍋パーティーが行われた（写真11）。

（写真7）重慶の第三軍医大学新橋医院骨科にてMANTIS2例目

（写真8）重慶の第三軍医大学新橋医院骨科にて手術後
左-助手、中-筆者、右-周教授

（写真9）MIS専用病棟の前で周教授と

（写真10）重慶崖っぷちホテルにて経皮椎弓根スクリュー技術検討会

（写真11）重慶の火鍋を周教授はじめ中国のMIS surgeonと囲む

南京にて手術難渋

毎日夕方から夜に次の地へ移動だったが、11月7日の重慶から南京は昼間移動だった。南京では友人に会えた。11月8日は南京で手術と講演を行った（写真12）。手術はL6のあるL5/6変性側弯でイメージがよく見えず難渋した。これで中国での予定手術は一段落した。

（写真12）南京で東南大学王教授主催の経皮椎弓根スクリュー技術検討会

上海にて2病院を回る

11月9日、第二軍医大学上海医院にて講演した（写真13）。午前午後と二つの病院を回った。11月10日最終日の講演はキャンセルとなり、ややホッとした。

（写真13）第二軍医大学上海医院にて講演

アウェイでのライブサージャリー

今までMIStは5つのアイテムが必要と書いてきた[1]。それは開創器、光源、MISt用システム、除圧道具、外科用イメージ、できればナビである。MIStは代務で気軽にやってくる手術ではない。南京ではOp台の下にうまくイメージが入らず変性側弯L5/6の椎弓根がよく見えないところに経皮的スクリュー挿入。横突起も折れ、うまく入りにくかった。日本での自分の手術状況の良さを改めて認識した。当院の環境、道具、スタッフのありがたさが身にしみた。

中国雑感

訪問したどの街も大きく、聞くといつも3000万人、中国一の都市だと。どの街もすごい人混み、スモッグ、空は晴れない。霧か公害かわからない。

8日間ずっと中華料理、飽きない。蛙入りカレースープ、アヒルの舌、ブタの耳、まあいろいろある。南京で頂いた一筆書くデザートはしゃれていた。

乾杯とはBottom up! 今回はそんなにきついお酒も出てこない。以前、南京を訪れたときは飲み続けダウン。青島ビールにも何種類か有るようだ。おなじみの青ラベルだけでなく赤ラベルも。最近はワインもありおいしい。

国内の交通。中国は広い。飛行機で移動、飛行機内は狭い。広州↔重慶、重慶↔南京は二時間のフライト。どの空港もきれいで立派だった。

中国の新幹線。南京から上海の移動、時速300kmを越える、一等車は日本の新幹線のグリーン車より豪華、約70分で結ぶ。北京ともつながる予定とのこと。

滞在中の体調。胃腸は強い方ではないが、そんなにひどい下痢は無かった。さすがに一週間目に疲れか風邪気味だった。

終わりに

アジアのドクターとは仲良くしていくべきだ。患者の体型や治療方針の考え方は似ている。やはり欧米とは違う。インプラントやインストゥルメントにしてもアジアバージョンが必要である。ドクター間で使用感や改良点など情報共有すると良い。

最後にすばらしい経験をさせていただいたストライカー中国とストライカー日本に深謝する。

文献:

1) 佐藤公治:低侵襲脊椎固定用システムの有用性と課題. 脊椎脊髄ジャーナル 24:1 51-56,2011.

MISt研究会のご案内

2010年MISt研究会を立ち上げました。既存の学会や研究会では十分な議論ができないMISS固定の詳細な話題を論議したいと思います。MISt研究会（定款など）についてはホームページ; http://mist.umin.jp/ をご覧ください。2011年11月5日（MIOS一日目夜）に前橋あたりにて、第二回MISt研究会オフ会を開催予定です。MISt研究会代表　佐藤公治。入会申し込みはメールで mist-office@umin.ac.jp へ。